

日本周辺国際魚類資源調査

(要約)

和田由香

目的

国連海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを補完するための調査を行う。

材料と方法

1. クロマグロ

(1) 漁獲状況調査

2015年1月～12月に調査対象とした図1に示す8地区にある漁業協同組合等（新深浦町漁業協同組合岩崎支所、深浦漁業協同組合、小泊漁業協同組合、三厩漁業協同組合、大間漁業協同組合、尻労漁業協同組合、六ヶ所村海水漁業協同組合、八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場）からクロマグロの水揚げ伝票を入手し、月別、漁法別、銘柄別に漁獲量を取りまとめた。

(2) 生物測定調査

2015年1月～12月に調査対象とした図1に示す深浦漁業協同組合、三厩漁業協同組合において、漁協職員が測定したクロマグロの尾叉長、体重データを入手し、月別にとりまとめた。また、大間漁業協同組合において、(国研)水産総合研究センター国際水産資源研究所が測定したクロマグロの尾叉長、体重データを入手した。なお、尾叉長の測定は、三厩では漁獲された1,150尾中973尾、深浦では6,180尾中859尾、大間では3,339尾中1,617尾について行われた。

2. サメ類

2015年1月～12月に調査対象とした八戸地区（図1）にある八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場の水揚げ伝票から、サメ類の月別、漁法別、銘柄別漁獲量を取りまとめた。

結果

1. クロマグロ

(1) 漁獲状況調査

調査対象8地区全体の漁獲量は582トンと前年(690トン)の84%であった。海域別にみると、日本海(岩崎、深浦、小泊)では246トンと前年(376トン)の65%、津軽海峡(三厩、大間)では283トンと前年(245トン)の116%、太平洋(尻労、六ヶ所、八戸)では53トンと前年(69トン)の77%であった(図2)。

定置網を主体とした日本海の深浦、岩崎の漁獲のピークは6月にみられた。釣り、延縄を主体とした小泊では7～8月に、津軽海峡の三厩、大間では7～12月に多く漁獲された。定置網主

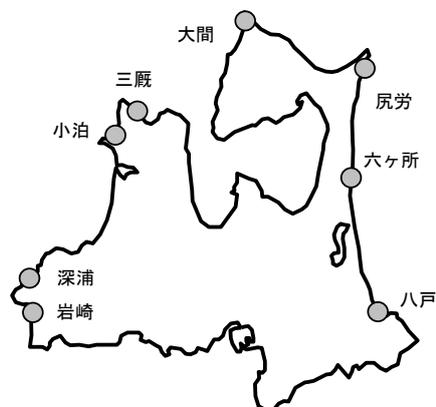


図1. 調査地点

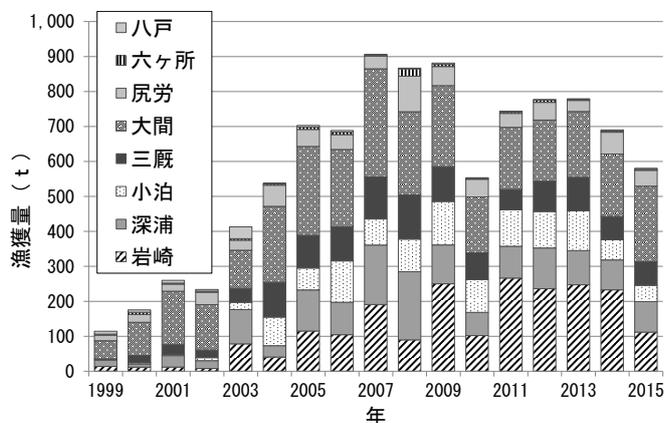


図2. 漁協別クロマグロ年間漁獲量の推移

体の太平洋の尻労では5～6月に漁獲のピークがみられた(図3)。

(2) 生物測定調査

三厩、深浦、大間におけるクロマグロの尾叉長を図4に示した。三厩では130cmと160cmが主体で、前年漁期の主な漁獲対象サイズ120～130cmと比べ大型魚の割合が高かった。深浦では盛漁期の6月に70～80cmと110～120cmにモードがあった。大間では160cmが主体で、7月と9月は200cm以上のものも多く漁獲されていた。

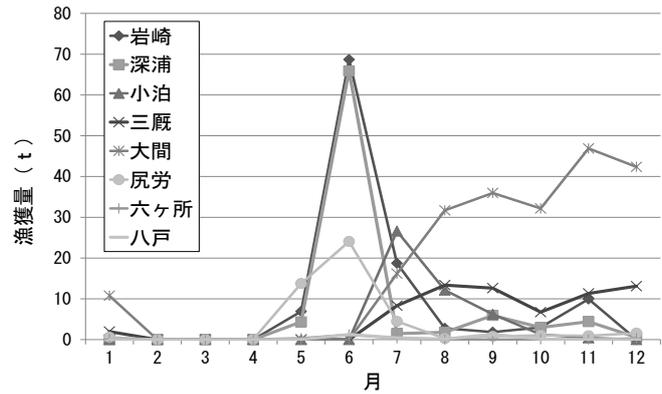


図3. 2015年の青森県沿岸8漁協におけるクロマグロ漁獲量の月別推移

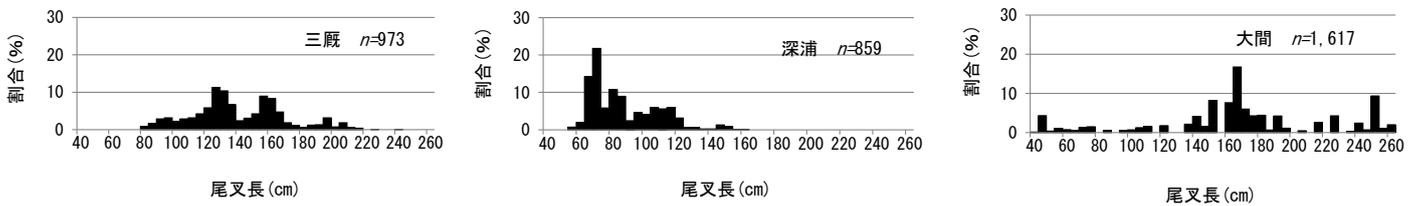


図4. 三厩、深浦、大間に水揚げされたクロマグロの尾叉長組成

2. サメ類

全漁獲量の98%をアブラツノザメが占め、そのほかネズミザメ等が少量水揚げされた。八戸のサメ類の漁獲量は、1995年から1999年は400～500トン台であったが、2002年から2006年にかけて100～200トン台と低迷した。その後漁獲量は2007年に増加し、以降は300～600トン台で推移した。2015年の漁獲量は331トンと前年(300トン)の110%であった(図5)。月別では、1月、12月の冬季に多く、2015年は1月に87トンと最も多く漁獲された(図6)。

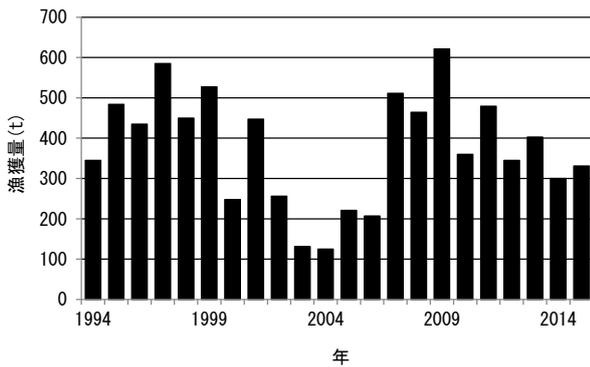


図5. 八戸で漁獲されたサメ類年間漁獲量の推移

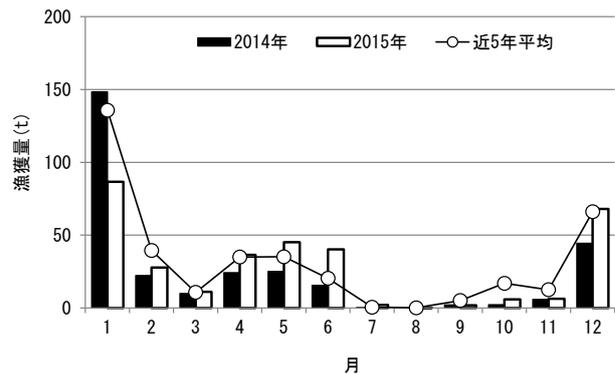


図6. 八戸のサメ類月別漁獲量の推移